

## 令和5年度第1回静岡県都市公園懇話会 記録(主な意見、質問)

内容	第1回静岡県都市公園懇話会
日時	令和5年6月16日(金) 午前10時~12時
場所	県庁別館特別第2会議室
出席者	都市公園懇話会委員(別紙委員名簿参照)、都市局長、公園緑地課長、事務局

### <概要>

- ・経営基本構想の見直しと経営基本計画の策定について、事務局から概要を報告し、質疑応答等を行った。
- ・令和5年5月3日に愛鷹広域公園で発生した事故の概要について報告し、質疑応答等を行った。

### 1 議題 経営基本構想の見直しと経営基本計画の策定について

#### <質疑等(→は事務局からの回答)>

牛場委員：令和5年度の利用者数と利用者満足度の目標設定方法は。

→利用者数や満足度アンケートは基本構想の第4期策定の中で定めている。  
H30に見直しを行っており、H26~H29の実績や今度の利用想定を鑑みて作成している。検討時点で伸びしろがあると考えられると意見が出たものは過去の数値より少し高め目標とし、十分に公園の魅力の活用ができていてそれを維持していきたいという公園は現状を確実に維持するという目標とした。

眞野委員：利用者数は誰がどのような方法で計測しているか。

→各公園により利用者数の計測方法が異なる。基本的には無料公園なので正確な確認は不可能な状況。有料施設に関しては利用者を把握しており、催事の場合はカウントした来場者数を主催者から提供してもらうこともある。無料施設に関しては一日数回決まった時間帯に駐車場の台数を計測して係数を掛けたり、日常巡回によりカウントする等である。

井口委員：国交省における、「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言」にあった重点戦略1について、県営公園の場合は地域のまちづくりと直接的ではないかもしれないが、都市公園である以上、地域とのつながりが求められている。また、重点戦略3について、ボランティア等色々な形で関わっている人たちに、さらに進んで公園作り、計画に関わってもらうと良い。それに関連して、利用者満足度アンケートや利用者数は高止まりしているため、今言ったような新しい評価の基準を取り入れることでこれからの動きが見えてくる。

→国交省の提言の中にある「まちづくりの場」は街中・住宅街にあるような公園も想定していると思われるが、静岡県には街中・住宅街から外れて単独で設置されている公園もある。それぞれの公園の特徴や周辺環境を理解

しながら対応していきたい。愛鷹広域公園は花・緑に関するボランティアだけでなく、新たなボランティア形態を募っている。こういったものを参考にしながら次の計画に盛り込んでいきたい。

井口委員：収支状況について、指定管理料に「特記分」というものが各公園にあるが、どんなものか。また、浜名湖ガーデンパーク基本計画の戦略「利用者サービスの向上」について、「アンケートによるニーズの把握と反映」の他に何か戦術を加えられないか。

→例えばエコパの特記についてはアリーナ天井工事があり、その間アリーナが使えなかった分の補填した。そういったものが特記分としてある。浜名湖ガーデンパークの戦術についてはプラスアルファということで見直したい。

黒田委員：経営基本構想について、「平成26年7月時点から大きな変更を要する要因はないため、表現の見直しや時点修正等の細部の見直しを行う」という方向になっているが国交省からの提言やSDGsの発表、パンデミックの危機管理は前回からの大きな変化だと思う。また、満足度や利用者数の向上は大きな成果だが、令和になるとかつての伸びほどではなくなっている。満足度と利用者数もそれ自信は目安になるが、そろそろ量から質に向けて、違った見方をしていくことが重要かと思う。特に人口減の問題もあるので、「細部の見直し」にとどまらず、基本的な所に踏み込んで見直すということが必要ではないかと感じたのでお願いしたい。

牛場委員：満足度については、一定の成果が上がっているのではないかと思う。商品・サービスについて満足度を測る場合に、満足度に加えて、「それを再度使うか」、「友人等に使用をおすすめするか」を含めて聞くことがある。サービスを使った瞬間以外を幅広く評価し、ボトムアップ的にやっていくのも一つの手。利用者数のカウントに関連して、国の提言にもある公園DXの推進について、例えば商業施設ではセンサーをつけたり、プライバシーの問題もあるがカメラで性別や年齢層を把握するものがある。ただし、カウント方法が変わってしまうので、過去からの連続性が失われてしまう可能性がある。

→公園DXについて、例えば浜名湖ガーデンパークではセンサーカメラで車の台数を計測している。そのようなやり方と従来のやり方を両方行って、例えば数値を補正する方法が考えられたり、そうすれば過去に遡って補正もかけられたり、比較できたりする可能性はある。どこかの公園で試すなどの方法も考えられる。

渡邊委員：地域の繋がりは大事だと思っている。団体がどう利用するのかだけでなく、市民や県民がどういう関わり方をするのかという視点を置いてサービスを提供するのが大事だと思う。市民の目からすると公園に植えられている木や花についての説明を知りたいこともある。

清水委員：施設の老朽化について、施設の存続を長期化するという意味で考えると、管理者だけが維持管理を細々とやるだけでなく、長期的な計画をもって大規模な修繕を県と共に考えていく、という視点を入れていただきたい。

→県で長寿命化計画を策定した。予算は全て公園でとれないが県全体の中で他の部局として作り上げたもの。もちろんそれで安心だというわけではないがそういった取り組みもしている。

中川原委員：公園に対してお客さんが何を求めているのかを把握して優先順位をつけて予算を配分しないといけないと思っている。利用者満足度は利用者からしか得られないため、行けない方の意見を聞くことができない。利用者を増やすことと利用者満足度を上げることは直結しない部分がある。人口の推移や都市公園に求められるものや担い手や街づくりの問題等現状をデータ集約を集約した上で、公園がどういう役割を果たすかという繋ぎが必要かと思う。数値の設定自体も的を射た形になっているのか、単にこれまでの積み上げの形で数値を設定していいものかという疑問がある。これからお客様としていく層の状況把握や分析を行いながら数値の設定を考える必要があると考えた。

細野委員：アンケートについて、単に利用者に対してだけではなく、公園に関わっているボランティア等公園に関わっている人達の意見も反映された運営をされていくと良いのではないかと。利用者アンケートと同じ形態でなくても良いが、そういった人たちの意見を吸い上げるのも良いのではないかと。

久留戸委員：アンケートはどのように取っているか。QRコードを読んで答えてもらったりしているのか。

→アンケートは指定管理者が年2回春秋、園内で利用者に記入してもらっている。エコパ等大きなイベントが多いところについてはイベント主催者に配って協力しているものもあるQRコードとかはなく、紙で行っている。

久留戸委員：任意なので積極的に書く人、積極的に書かない人がいて、積極的に書かない人の中の満足度がわからない所がある。例えば最近よくあるQRコードを使って答えられるようにしたり、ポイントをもらえるようにしたら、集まりやすいのではないかと。集計も楽だと思ふ。

黒田委員：アンケートは質問紙に書いてあること以上の答えは得られない。世の中の状況や思考が変わってきているなかで、潜在的な意見をどうすくい上げられるのかが大事。アンケートは定点観測の意味で重要だと思うが、拾えないような情報をいかに拾うか、常時でなくても良いが工夫して欲しいと思う。また、基本構想の「民間の活力の導入」について、指定管理制度で形式的には「民間の活力」は得られているが、10年以上やる中で、方向性どおり「民間の活力」が

発揮されているかという検証を行う必要がある。公園によっても違うと思う。行政直営時代と比較して、効率化、経費削減が図られた部分については、逆に行政運営に取り入れていただきたい。県営公園ゆえのパブリックなマネジメント、今後は民間活力に対する行政活力というか、県としての管理・指導力の強化も必要である（人材・ノウハウの蓄積等）。

牛場委員：様々な社会実験に関わる部署の情報を県の方から公園へ情報を流してマッチングしてあげる機会があれば良いのではないかと。利用者アンケートの話の中で伸びしろ型や現状維持型があると思うが、それは数値としてのパターンだと思う。他県等のうまくいった先事例を実際に見に行くことで、指定管理者の意見聴取の際の一助になれば良い。

→社会実験について、例えばエコパで学生フォーミュラを開催したり、体育館やアリーナを使ったドローンの体験教室をやったりしている。各公園の規制もあるので、各公園のリニューアル等の際に考えていきたい。

黒田委員：ボランティアも必要だが最近は民間企業も社会貢献やCSR、実験の場を求めている。これから運営の担い手の中で、社会実験的なことも考えると民間企業の視野をいかに取り入れていくか、検討していただきたい。また、施設の老朽化もそうだが目的の老朽化というものもある。例えばこどもの国は当初はこどものためだが、昨今の少子化状況を考えると、果たしてそういった目的だけで良いものか、目的含めて現状に即して見直していくのが必須だと考える。

## 2 事務局からの報告事項

### <事務局からの報告事項概要>

・令和5年5月3日に愛鷹広域公園で発生した事故の概要について説明した。

### <質疑等（→は事務局からの回答）>

井口委員：事故の原因は。

→多くの人が跨いだり上ったりされた際に発生した。グラウンド管理用の手すりとして設置されたもの。そのため、事前に上る・跨ぐ・ぶら下がるなどは行わないように注意喚起を掲示していた。現時点では警察が見解を示していないため、これという事故原因や改修方法の公表はまだである。

井口委員：ソフト面で注意喚起も大事だが、今後の方針として、ハード的に構造上そこに近づけない、上れないようにする等も考えていただきたい。

久留戸委員：他の球場、例えば日本平では手すりに寄りかかっても倒れるようなイメージが自分にはないが、手すりの強度が弱かったということはないのか。

→他の陸上競技場なども調べたが、構造的には同じような仕様が多い。

一人二人寄りかかっても倒れない。ただ多くの方々が手すりにぶら下がったり跨いだりと、やはり曲がるなど破損する可能性がある。

久留戸委員：今回の事故に公園側の過失はないということになるか。

→施設としては設備管理に過失はなかったと考えている。

ただ警察からの公表はされていないので、正式な説明はまだ未実施である。

清水委員：日常の維持管理や点検にも問題はなかったか。

→毎月及び、大きな催事前の随時の点検でも問題なかった。

令和4年度11月の12条点検でも問題なかった。

眞野委員：芝生は完全に自由席だったのか。そうすると前列に人が集まり、サポーターは集団一カ所にまとまることは想像できる。

日本平は座席でわけているが、芝生席でエリア指定する等人を分散させるようにした方が良いのでは。

→現在は最前列に人を入れないようにコーンで制限している。芝生なのでなかなかエリア指定ができないが、警備員も立てて最前線に近づけないような形にしている。これからも安全対策を進めていく。

## 令和5年度 静岡県都市公園懇話会の出席委員

開催日 令和5年6月16日

(敬称略、五十音順)

分野	役職	外部評価委員	担当公園	氏名	現職又は役職	出席
公園機能分野	会長			イグチ ヨシヤ 井口 義也	一般社団法人日本公園施設業協会 専務理事	○ (リモート)
経営戦略・事業評価分野		外部評価委員	小笠山総合運動公園	ウンバ サン 牛場 智	静岡大学 人文社会科学部 准教授	○
公園機能分野				クルト リョウコ 久留戸 涼子	常葉大学 教育学部 教授	○
公園機能分野	副会長	外部評価委員長	遠州灘海浜公園	クロダ コウジ 黒田 宏治	静岡文化芸術大学 名誉教授	○
イベント・利活用分野		外部評価委員	愛鷹広域公園	シミズ ヒロコ 清水 裕子	大阪公立大学 特別研究員	○
経営戦略・事業評価分野				スギハラ ケンイチ 杉原 賢一	杉原賢一税理士事務所 公認会計士	○
地域振興分野		外部評価委員	富士山こどもの国	ナカガワラ テカエ 中川原 史恵	公益財団法人品川文化振興事業団 理事長	○
地域振興分野		外部評価委員	草薙総合運動場	ナカニシ ケンイチロウ 中西 健一郎	静岡産業大学 スポーツ科学部 教授	×
イベント・利活用分野		外部評価委員	浜名湖G P	ホノ モモコ 細野 百子	株式会社博報堂 マーケットデザイントランスフォーメーション戦略局	○ (リモート)
地域振興分野		外部評価委員	吉田公園	マノ マサオ 眞野 匡雄	静岡県中小企業団体中央会 理事兼事務局長	○
イベント・利活用分野				ワタナベ ヨシヒロ 渡邊 佳洋	静岡県レクリエーション協会 相談役	○